川北のひろば

日本共産党の見解を紹介します。
2018年号外　発行　日本共産党川崎北部地区委員会
連絡先　川崎市多摩区西生田1-13-1　電話044-281-3501

平和・人権・文化

若者が夢を描ける社会を

9条改憲、消費税10%、仕事（働き方）、生活保護引き下げ、ヘイトスピーチやLGBT……日本にも川崎にも課題が山積しています。

このままではいけない。若い皆さん、夢に向かってともに声を上げていきましょう。

私も、皆さんの声を政治に届けます。平和を大切に、誰もが安心してくらせる、文化あふれる街。川崎市・宮前区をつくっていく決意です。

よろしくお願いいたします。

日本共産党宮前区市政対策委員長　**佐藤純一**

CHECK

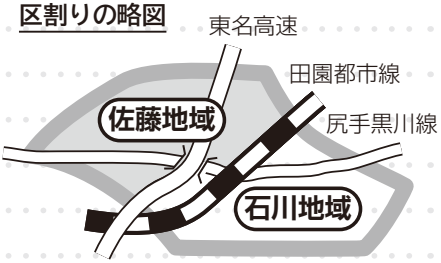
佐藤・石川コンビで 宮前区の住み良い街づくりに全力

宮前区の皆さんから寄せられている、ご要望とご期待にもっともっとこたえていきたい。この思いから、フレッシュな佐藤純一さんと力を合わせて、住み良い宮前区づくりに取り組んでいきます。

佐藤さんが担当する地域の皆様には、これまで私に寄せられたご指導・ご鞭撻に心より感謝申し上げるとともに、これからは区民のくらしを守る28歳、佐藤純一へとお寄せください。

川崎市会議員　**石川建二**

区割りの略図



※詳しくは、裏表紙をご覧ください

MESSAGE

親身になって、市民の声に耳を傾ける

弁護士　山口毅大

憲法が踏みにじられ、労働法制が改悪されることによって、今、市民の暮らしが脅かされています。そのような中で、地方から市民の生活を守る取り組みがより一層重要になってきます。

憲法を守り、働く人の声に耳を傾け、市民に寄り添った政治が必要です。若さとその持ち前の行動力で、日々、市民や労働者の声に親身になって、耳を傾け、一人ひとりの暮らしを大切にする政治をめざす佐藤純一さんを応援します。

MESSAGE

佐藤純一君の挑戦に期待する

映画プロデューサー　植田泰治（宮前区在住）

佐藤純一さんは2011年に日本映画学校を卒業、脚本家を目指していました。1960年に大学を出て映画界に入った私にとって51年後輩です。

佐藤さんに「映画を目指すキッカケとなった作品は？」と尋ねたら「清作の妻」という答えが返ってきました。監督／増村保造、主演／若尾文子・田村高広（1965年大映）。日清戦争から日露戦争にかけて宿命的な絆で結ばれた夫婦の壮絶な純愛を描いた傑作です。

若い佐藤さんの渋い選択に私は絶句しました。将来日本アカデミー最優秀脚本賞を受賞するかもしれない有望な人材なのに、政治の道に方向転換させるのは間違いではないか？

しかし、南国土佐から遥々上京し、赤貧に耐えて映画を志して来た佐藤青年だからこそ、人々の心の痛みに深く共鳴できる政治家になるのではないか？と私は思い直すことにしました。

私が製作した映画「種まく人々」のDVDを佐藤さんに観て貰い、治安維持法国賠同盟に入会して貰いました。佐藤さんが新しい世代の新しいタイプの「種まく人」として、戦いの歴史を受け継ぎ発展させることを期待したいと思います。

高知県南国市に産まれる

1989年高知県南国市に生まれました。家族は、両親、妹それに祖母。父は日本共産党の高知県事務所の勤務員、母は保育士として忙しく働いており、私はそれを見て育ちました。忙しい中でも、夏休みになると、家族そろってよくキャンプや旅行に出かけたことを覚えています。

人見知り

子どものころから人見知りな性格でした。

夏休みの宿題でお年寄りに戦争体験の聞き取りに行ったとき、体験談を伺ったあとに、「何か質問は？」と聞かれ、「戦争が終わったときどう思いましたか」と聞きたいと思いましたが聞けませんでした。今だに、あの時聞いておけばよかったと思い出します。

高校時代 ―民青同盟の活動に熱中

2002年、高知県立高知丸の内高校に入学。入学と同時に、世の中のことを勉強したくて日本民主青年同盟（民青）に入りました。

民青では餃子を作って食べたり、スポーツ大会をやったり、充実した日々でした。しかし、いちばんの思い出は、広島の被爆者の方のお話を生で聞けたことです。原爆のひどさをより生々しく感じ、核兵器はなくしていかなければいけないと思いました。

妹と仲良し

中学校の運動会

安保法制反対の集会で

映画の専

民青同盟の活は、映画をレンうになり、次第ひかれました。

そして、さら持ち、シナリオりました。卒業ざして新百合ケ画学校（現・日入学。クラスメ編映画を制作、作の脚色を学び

MESSAGE

その優しさとたくましさ

浜川百合子（高校時代の友人）

「この人は寂しかったがよ」。当時高校生だった佐藤さんが、社会の隅で傷つきながら生きる人を描いた映画を、私に紹介して、こう言いました。話しているといつもハッとさせられる、そんな人です。原水禁世界大会にむけ、６万個のプルタブを集めて、ピカソの「ゲルニカ」を作る取り組みをした時、一人で２万個を集めみんなを驚かせました。

厳しい現実を生きる人に心を寄せる優しさと、こうと決めたことはやりぬくたくましさを持った人です。

佐藤純一

専門学校へ

活動がない日にタルして見るよにその奥深さに

に脚本に興味を
を読むようにな
後、脚本家をめ
丘にある日本映
本映画大学）に
イトと実習で中
脚本の勉強も原
ました。

フリーター時代 ―働き方への疑問

卒業後は、スーパーの精肉部門で働きながら脚本の勉強。しかし、その収入では、家賃や光熱費、食費でかつかつの毎日。インフルエンザで休んだときなど生活は本当に大変でした。

チェーンの飲食店で一人社員だった友人が、休日もなく、連日夜中までの残業という異常な勤務のもとで、退職しました。

「仕事は嫌いではない」というその友人の言葉を思い出し、「働き方のルールさえキチンとしていれば、やめずに続けられた」と悲しくなり、まじめに働いてもフツウに暮らせない、社会の在り方に疑問を持ちました。

区民からの相談に弁護士とともに

戦争法反対の運動 そして、共産党

2015年、戦争法に反対するデモに、参加するようになりました。政治のデモというと、堅苦しいイメージがありましたが、このデモは、若者や子ども連れの家族も多く、思想信条に関係なく現状に危機感を持った人が気軽に参加していること、そしてその熱気が驚きでした。

様々な人々が自分の言葉で、このままではいけないと訴えている姿に、とても感動しました。

おかしいと思ったことを声に出していくこと、国民の声を受け止める政党が大きくなることが必要だと感じ、日本共産党に入党しました。

の生い立ち

1

13

28

子育て世代　高齢者　若者

佐藤純一の
みんなイキイキ、安心
川崎・宮前区プラン

若者に希望

●全国一律の最低賃金の確立。最低賃金1500円を。
●サービス残業なくし、労働基準法を守るよう、市内企業に働きかける。
●学生の奨学金を無利子化、返済困難者への免除制度、川崎独自の「給付型奨学金」制度の拡充を。
●学生、働く若者向けの住宅家賃補助制度の創設。

文化の街

●「音楽の街かわさき」にふさわしく音楽、演劇、映画などの文化活動ができる諸施設を整備し、若者が集う街、「文化の発信基地・宮前区」を提案。

安心・子育て

●子どもの医療費を所得制限なしで中学卒業まで無料に。
●待機児ゼロへ、認可保育園の用地確保・増設を。
●小中学校の少人数学級の拡大を。
●高校奨学金予算の大幅増額、希望者全員に支給を。

安心・老後

●特別養護老人ホームを大量増設、待機者の解消を。
●介護保険料の引き下げ、利用料の減免、介護手当の復活を。
●70歳以上の医療費を１割負担に。
●敬老パスを無料に。

防災の街

●プライバシーが守られ、障がい者も安心できる避難所の整備。
●熱中症対策を強化し、すぐに学校体育館、子ども文化センターなど公共施設各部屋にクーラーの設置を。
●住宅などの耐震補強工事への助成拡大を。

地域交通・緑

●山坂の多い地域の「足の確保」。白幡台、高山地域などへのコミュニティバス実現と必要な支援を。
●向ヶ丘遊園跡地は、緑の豊かな、みんなが楽しめる場所に。
●環境破壊、工事公害と私有財産権侵害のリニア建設の中止。

鷺沼駅前再開発は区民第一で

●区施設の移転は、区民全体の問題。市の必要な情報公開を前提に、住民の参加と合意で決めるよう求めます。
●人口の急増と区民活動・区民ニーズの多様化に比べて、区民向け施設の整備は大きく立ち遅れています。20万都市宮前区の将来を見据え、防災・文化など区民要望に沿って、区施設の整備を行います。

2つの拠点、1つの出張所

●現区庁舎地域と鷺沼駅前地域を区の街づくりの2つの拠点と位置づけ、防災の街、文化の街の視点も含めて拡充を図ります。
●向ヶ丘出張所の施設の充実をすすめます。
●拠点間の交通手段を新たに整備し、利便性を高めます。

税金の使い方を改める

市民の暮らし・福祉・安全を優先に

川崎市政は、国の港湾計画いいなりに臨海部開発の不要不急事業に多額の税金をつぎ込む一方、国基準優先で、福祉や医療、教育の切り捨てを進めています。

「住民の福祉の増進を図る」（自治法1条の二）という自治体本来の立場にたちもどり、市の豊かな財政力を生かして、市民生活優先の財政に転換します。そうすれば、佐藤純一のプランは実現可能です。

MESSAGE

文化と「健康的な働き方」を大事にする人

塩田悠玄（友人・新聞記者）

佐藤純一さんは、映画という文化に造詣が深く、映画を通して人や社会の様々な姿を見てきた人です。また、一方で、スーパーなどで働く経験を積み、日本が抱える長時間労働をその身で感じた人でもあります。

文化に親しむこと、人間らしく健康に働くことは市民、特に若者にとって、とても重要なことだと思います。そのどちらも大切にしてきた佐藤さんこそ、私たちのための市政を実現してくれる人物だと断言できます。

区民を守る若い力、佐藤純一さんを推薦します

宮沢　明（五所塚在住）
功刀　俊彦（神奈川土建川崎中央支部常任執行委員）
白田　武美（東部建設協同組合理事長）
西村　真紀（医師）
神谷　ひろ子（子育てサロンまめっこ庵代表）
齋藤　良夫（元川崎市健康福祉局長）
山口　毅大（弁護士）
山中　芳幸（平在住）
石川　正士（新日本スポーツ連盟川崎市連盟理事長・菅生在住）
小池　汪（写真家）
小久保　善一（自治体問題研究所川崎支所・菅生在住）
（順不同）

佐藤純一 PROFILE	●1989年12月27日、高知県南国市生れ。高知県立高知丸の内高校卒。●2009年日本映画学校　脚本・演出コース（川崎市麻生区、現・日本映画大学）卒。●趣味は読書、散歩、ヨガ　●現在、党宮前区市政対策委員長　●家族は父母、妹、祖母。現在は宮前区犬蔵で一人暮らし。
FACEBOOK	https://www.facebook.com/profile.php?id=100009536895037
活動地域	宮前平、宮崎３～６丁目、土橋１、５、６、７丁目、犬蔵、けやき平、神木、南平台、神木本町、五所塚、平、白幡台、初山、菅生、菅生ケ丘、水沢、潮見台

国政でも

安倍政治ノーの願いを こんどは共産党へ

戦争NO、憲法９条守る ぶれない党です

選挙が近くなるとくっついたり、離れたり……。そんなこととは無縁の党です。

平和が危ない、安倍政治を許さない…市民と野党の共闘を何より大事にし、真剣に取り組んできました。

市民と野党の共闘のかなめ 消費税10%、ゆるさない

日本共産党が伸びれば、本気の野党共闘が前に進みます。本来の力を発揮します。

安倍政権がこんどは９条改憲の国会発議、消費税10%増税をねらっています。日本共産党を、大きく伸ばしてください。

参院　神奈川
あさか　由香
（浅賀ゆか）

参院　比例
しいば　かずゆき
（椎葉寿幸）